

たき せ

滝瀬遺跡(範囲確認調査)

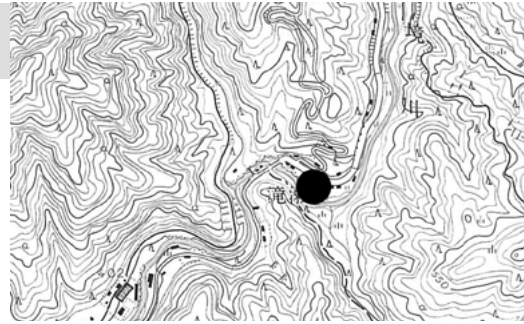
所在地 北設楽郡設楽町八橋字タキセ
(北緯35度7分10秒 東経137度34分55秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成28年11月～12月

調査面積 322㎡

担当者 池本正明・蔭山誠一



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事関連の事前調査として国土交通省から愛知県教育委員会を通じて委託を受けて実施した。滝瀬遺跡は縄文時代と室町(戦国)時代の遺物散布地として周知の遺跡で、平成27年度と今年度に本調査が実施されている。今回の範囲確認調査は、遺跡の北側にある調査対象範囲内に平面1m×2mの試掘トレンチを116ヶ所、5m×18mの試掘トレンチを1ヶ所設定した。そして遺構と遺物の有無を地表面から順にバックホウや人力により掘り下げて確認し、遺構面(地山面)の遺構・遺物と地層の堆積状況を確認した。調査面積は117ヶ所で322㎡である。

立地と環境 滝瀬遺跡は境川右岸の河岸段丘上から山麓の丘陵斜面に立地する。なお、遺跡の中を江戸時代の伊那街道が通る。

調査の概要 調査は遺跡の中央を東西に走る県道10号設楽根羽線の北東側にあるTT001～TT034から始めた。山側のトレンチでは表土を除去すると、その下から地山となる粘土や砂礫層、岩盤などが検出される地点が多く、明確な遺構や遺物は確認できなかった。一方、県道に沿ったトレンチでは地表面の下に表土や盛土・整地層があり、その下から地山の黄褐色～褐色粘土や粘土質シルト層の上面や黒褐色～黒色粘土～シルト層上面に遺構面が確認できた。TT016・TT018・TT021・TT028・TT029では、土坑の遺構とともに縄文土器片、安山岩剥片、凝灰岩剥片、天目茶碗片などが少数出土した。

県道の北で遺跡の北西側にあるTT035～TT041・TT049～TT116では、現状の地形を形成した際の地形造成により、TT052・TT085・TT090・TT104・TT109・TT114では遺構面が残っておらず、遺構・遺物が確認できなかったが、他のトレンチでは地表面下に黒色～黒褐色・暗褐色のシルト層が確認できた。その中で、県道沿いのTT036～TT038・TT041・TT072・TT074・TT097・TT111・TT116においては土坑などの遺構とともに縄文土器や安山岩刃器、安山岩剥片、山茶碗、天目茶碗などが少数見つかると、その周囲のトレンチにおいても遺構が確認できた。TT055・TT056・TT058～TT060では、土石流による大小の礫が伴う黒色シルト層が確認された。また遺跡の山側斜面地にあるトレンチでは、TT087において天目茶碗片が1点出土したが、他に明確な遺構や出土遺物は確認できなかった。

県道の南で遺跡の西端にあるTT042～TT048では、TT042において安山岩剥片が出土し、遺構と考えられる土坑を地層断面において確認できたが、その他のトレンチでは、現状の地表面造成に伴う盛土・整地層が深く及び、遺構・出土遺物は確認できなかった。TT042は遺跡の西端部に当たるものと考えられる。

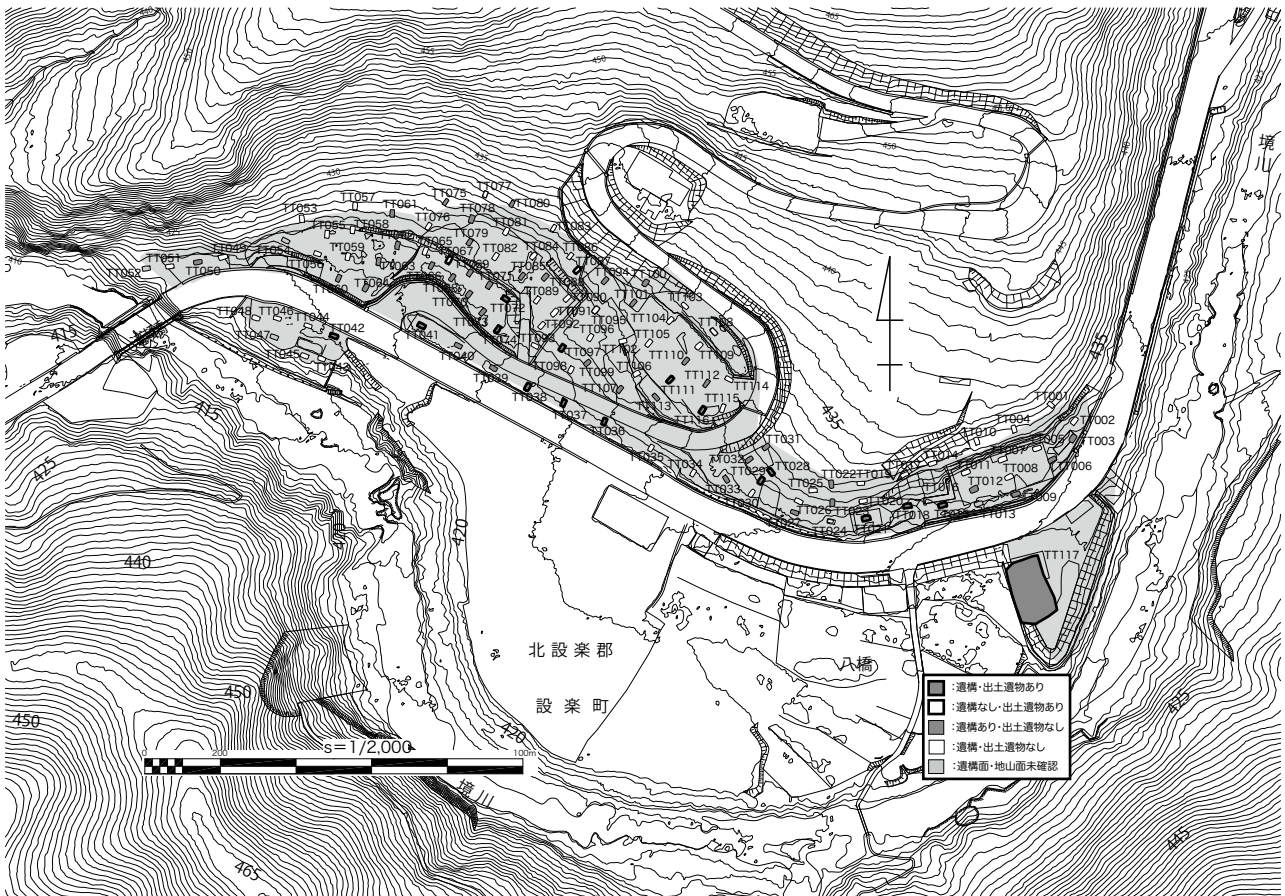
県道の南で遺跡の東端にあるTT117では、発掘調査の16A区に隣接する地点で、縄文土器や黒曜石剥片、安山岩礫、凝灰岩礫などが多数出土し、土坑15基を検出した。よって遺跡の東端は調査対象範囲の東端部に至る可能性がある。(蔭山誠一)



TT072遺構検出状況(北西から)



TT117遺構検出状況(北から)



滝瀬遺跡範囲確認調査トレンチ配置図(1:2,000)